



みんなで支える  
子育て安心県

# 市町村子育て応援シリーズ Vol.05

平成27年からスタートした『子ども・子育て支援新制度』では、市町村の地域性を生かした幼児期の保育や子育て支援の充実が求められています。そんな市町村の新たな取り組みを、継続中のプランも含め紹介していきます。今回は伊那市の子育て応援プランを知るべし！



—子どもの意欲ってすごい！—  
がるがるっこ

たごさん  
ウイナー  
みたい!



各保育園のシンボルツリーの観察や四季を通して生まれる子ども達の感性や意欲を生きる力に繋げている。この保育園のツリーは、ざくろ。春はつぼみの形から理想したもの…?秋は木や隣の登り棒からざくろとり。夢中で楽しむ遊びを通して運動能力も向上している



カタツムリのうんち、  
人参を食べると  
オレンジ、キャベツは…  
緑色だね!



えっ!? 新聞紙や  
チョコクも  
食べちゃうの?



中央アルプス・南アルプスの麓の川で川遊び。タイヤチューブやイカダに乗って、川を泳いだり飛び込んだり、虫の観察など、ダイナミックで面白い本物の体験が感性を揺れ動かす。保護者会の協力があるからこそ伊那市独自の行事だ



科学絵本から、カタツムリのウンチが食べ物によって色が変わることを知った子ども達。早速、飼っているカタツムリにいろいろなえさをあげたところ、翌日、大興奮!



じっと地面に耳をあてて、何かに聴き入る2歳児。何気ない子どもの行動の中に、発達上の意味が必ずある



—当たり前が大切—  
毎日の生活力アップ!  
(基本的生活習慣)

全国の雑誌から2年連続で『子育て世代にピッタリな田舎部門日本一』に選ばれた伊那市。支持されている理由のひとつのキーワード、それが『がるがるっこ』だ。子どもは自ら面白がる、試してみたいなど、「自ら遊ぶ(学ぶ)存在」であることから名付けられた。そのため、子どもの周りの社会環境をより良い意味のあるものに、と多様な取り組みが行われている。豊かな自然体験をしつかり学びと捉えていく保育や、子育て講座の充実、首都圏との交流を通して芸術文化に触れる場づくり、地元産業を活かしたウッドスタート事業など、その提案はとどまるところを知らない。乳幼児期から平等な社会保障が大切と、産業、教育、行政が一体となり(産官学)、様々な立場の人が知恵を出し合い、子育て環境を創り続けている。

—みんなで子育て—  
子どもは地域の宝物



お互いの体温を感じながら肉声を通して人と人が触れ合える、それが読み聞かせの魅力。保育士、父母、祖父母、地域の方々が、一つのお話の世界をゆったりと満喫

次世代を担う子どもたちが健やかに育つ「子育てしやすい地域」を目指して、様々な人が子どもと日常的に関わる場づくりや行事も盛ん



生後6~7カ月児相談時に、地元木工職人が地元木産の温もりあふれるおもちゃと絵本を全員にプレゼントする「ウッドスタート事業」を推進。ほかにも、木工職人が保育園で木のおもちゃづくりを教えてくれる「木育推進事業」に取り組んでいる



避難訓練は、小学校の学童保育や高齢者支援施設利用者の人達や校長先生と一緒に。「子どもは地域の宝で、地域の宝は地域で育てる」がモットーだ

身体測定では、5歳児と3歳児と一緒に着替えたり手伝いをしたり。子ども達の一番の学び方は、発達が少し上の子どもの真似をすること。子ども同士の関係からの育ちを大切にしている



基本的生活習慣の定着の大切さを伝えるために、月ごとに目標を決めて「すくすくカード」を作成し、保護者に配布して情報を共有しながら子育てをサポート



お昼寝前の着替えも、保育士は、自分でしたい気持ちを大切に、着替え時間をしっかりとって、一人一人の育ちに合わせたいい関わりをしている

Data

問い合わせ先/伊那市子育て支援課  
〒470-0300 伊那市下新田3050 ☎0265-78-111(内)2326  
月~金曜/8時30分~17時15分 ㊚http://www.city.ina.nagano.jp/kosodate\_kyoiku/index.html

指さし

0.1.2 歳児  
五感を養い  
世界を広げています



まだ言葉が出ていない赤ちゃんにとって、指さしにはいろいろな思いが込められています。発見した驚きや喜びを伝えて、それに応えてくれる人の表情や言葉を手がかりに、意味を推測する力を養っているのです。また、「わかってもらえた」という喜びがさらに伝えよう、関わろうとする力に繋がります。



ダッダッって  
土を掘ってるね

音を口で  
発する

ダッダッダッ

大人が音を伝えるのではなく、子ども自身が音を拾い、言葉に表現できるようになっています。また、視線の先を一緒に見ることによって、気持ちの共鳴が生まれていきます。

地域の人と  
触れ合う



こんにちは!  
コイ見ても  
いいですか?

子どもは  
いいねえ

赤ちゃんは、大人が思わず言葉をかけたり、コミュニケーションをとりたくなる、そんな不思議な力を持っています。



いつも  
ありがとう!  
これ、プレゼント



こんにちは!

毎日積み重ねる地域の人達との触れ合いが、子ども理解、子育て環境への理解にも繋がっていきます。人と人のやりとりの間合いを感じとって応答的な感覚が育まれていきます。

今、社会では人と関わる力(非認知力)が  
求められています

人や物と関わる力は  
どう育つのでしょうか

子どもは、生まれた時から周囲の環境にたくさんの影響を受けながら成長していきます。興味のある環境に関わる中で、さまざまなことを感じ、考えたり気づいたりしているのです。子どもは遊びや生活の中で身近な環境と関わりながら、どんなふうに関わるかを自分の世界に取り入れているのでしょうか。  
屋内でのテレビやゲームなどの間接的な体験が増えてきている現代、直接体験が大きな意味を持っていることを踏まえ、新たな人や物との出会いが満載の「散歩」を通して、関わる力について考えてみましょう。

3.4.5 歳児  
社会の文化に触れ  
疑問を探究心や  
思考力に

よびかける、手を振る、  
気持ちを分かち合う



おーい!

初めての人やものに触れて、どうなっているんだろう、どこから来たんだろう、といった疑問や考えが、思考力の深まりに繋がっていきます。



こんにちは、  
どこへ  
いくの?

information

「信州 DC おもてなし隊」を募集します!

2017年7月～9月の3か月間、「信州 destinations キャンペーン(信州DC)」が開催されます。これは、JRグループと県が行う国内最大規模の観光キャンペーンで、今年の7月～9月には、本番に向けてプレ信州DC「信州DCおもてなし隊」がスタートします。県外からいらっしゃるお客様に手を振って、おもてなしの気持ちを伝えてみませんか。地元の方の笑顔と温かい歓迎の心を、何よりもお客様の心に響きます。笑顔で、お客様に手を振りましょう!

問い合わせ先 / 長野県観光部観光誘客課観光プロモーション係  
☎026-235-7254 月曜～金曜 / 8時30分～17時15分 ㊚http://www.pref.nagano.lg.jp/kankoshin/press/160511press.html



宮下春奈さん



これ、なんだろう?  
駅の人に  
聞いてみよう

協力: あかね北保育園(千曲市)、JR映捨駅